

広報広聴特別委員会会議記録

【開催日時】 平成28年8月22日（月）
午前11時15分～午後0時5分

【開催場所】 第1委員会室

【出席委員】

委員長	長谷川 知 司	副委員長	河野 朋 子
委員	大井 淳一朗	委員	笹木 慶 之
委員	下瀬 俊 夫	委員	中村 博 行
委員	矢田 松 夫	委員	山田 伸 幸
委員	吉 永 美 子		

【欠席委員】 なし

【委員外議員等】 なし

【事務局出席者】

局次長 清水 保 書記 原川 寛 子

【付議事項】

- 1 議会報告会について
- 2 議会だよりについて

【議事の概要】

- 1 議会報告会について

- 未就園児の保護者を対象とした議会報告会について委員から意見が出た。
- ・議会報告会と市民懇談会の区別が分からなくなっており、きちんとすべき。
- ・次の議会報告会に委員会での検討事項を報告できるようにするべき。
- ・全議員が参加して特定の対象に入っていく形式は新しい挑戦だったが、これは双方向の市民懇談会に位置付けたほうがいい。
- ・これまでの6会場から2会場となったことで批判の声もあった。
- ・市民が議会とはどういうものかを知っていただく素晴らしい機会だった。
- ・実施要綱の見直しもしていかないといけない。
- ・今回のが市民懇談会であるならば、今後議会報告会6会場にプラスしてやるのか。議会報告会と市民懇談会のすみ分けも議論していかないといけない。
- ・今までのやり方を打破して若い人の声を聞きたいということで、今回の形になった。それができたかをこの委員会で評価しないといけない。
- ・行き詰まっているから回数を減らすというのは安易な考えである。
- ・紙芝居は議会とは何かの説明であって、議会報告ではない。まず今回の形式

が議会報告会だったのかどうかを検証しないとイケない。

- ・固定化している今までのやり方を変える一つだと思う。
- ・議会報告会は議会で何が合ったのかを説明するものである。
- ・議会報告会は報告会として今までどおりやっていくのか、市民懇談会という形を別に設けるのか整理したほうがいい。
- ・今回の経験でどうプラスになったのか、きちんと総括する必要がある。
- ・お母さんたちに意見はたくさん聞けたが、議会の審議内容は伝わっていない。
- ・議会や議員が身近に感じられたことで、今後報告会にもつながっていくのではないか。
- ・いろんな層の人たちに議会の現状や審議内容を知らせていくべきで、今までの同じパターンとは少し変えていったほうがいい。
- ・説明責任として議会報告会をやるのなら、少人数で自治会単位に入っていく方法もある。
- ・自治会に入っていくやり方は自治会懇談会とのすみ分けやほかの自治会の人が行きにくいという課題がある。
- ・今回特定のグループを対象に絞ったことで、それは乗り越えたのではないか。
- ・日程の都合が悪い方は別の会場に行っていた。地域でやっても大きい会場を二、三設ければ参加されるのではないか。
- ・9月は決算があるので従来どおり6会場がいいが、埴生の福田や厚狭北部など地域を狭めてやってもいいのではないか。
- ・議案に関連の深い地域に入るならいいが、何の議案が出るか分からないうちに決めるのは難しい。

(結論) 議会報告会については、次回以降も引き続き検討していく。

2 議会だよりについて

- 地方議会人に掲載された議会広報クリニックを確認した。市民との関わりを考えた紙面作りなど広報の在り方を今後研究していく。
- 現在の議会だよりの契約内容について説明した。

平成28年(2016年)8月22日

広報広聴特別委員会委員長 長谷川 知司